

講義科目名称： コミュニケーション演習Ⅱ

ナンバリング： N-12-02-D

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1単位	必修
担当教員			
土居裕美子（ydoi@tcn.ac.jp）			
授業形態	授業時間数	授業時間外学習時間数	科目区分
演習	30時間	15時間	基礎分野【つながる基礎】
添付ファイル			

特記事項	資格選択区分 ■看護師資格必修 ■保健師資格必修 ■養護教諭二種免許必修 □看護師資格選択必修 □保健師資格選択必修 □養護教諭二種免許選択必修 ディプロマポリシーとの関連性 ■広い視野と人を思いやる豊かな人間性をはぐくみ、人生の問題や課題に誠実に向き合う力 □高い倫理性と堅固な使命感をもって生き抜き、人に寄り添う力 □専門的な基礎知識と論理的思考にもとづいて看護実践する力 □チームワークを重んじ、創造的に多職種と連携・協働する力 □病院から地域・在宅へと療養の場が移るなかで、地域で暮らす人びとの健康と生活を支え、地域とともに歩む力 アクティブ・ラーニング ●あり ○なし 実務経験のある教員による授業科目の配置 ○担当している ●担当していない 実務経験を授業科目にどのように活かしているか 科目等履修生ほか受入（受入可能人数） ●受入可 ○受入否 受入可能人数 5名程度
------	---

授業の概要	「コミュニケーション演習Ⅰ」で培った対話力を応用し、多様な集団やデジタル環境に対応できる「つながる力」の習得を目指す。遠隔環境でも状況把握と情報伝達を正確に行う技術、年齢や立場の異なる人々との協働的な対話の実践力を高め、複雑な課題に主体的に関わり続ける協働的なコミュニケーション力を確立する。					
到達目標	・年齢や背景、価値観の異なる他者の文脈を尊重し、相手に応じた適切な対話を実践できる。 ・正解のない複雑な課題に対し、集団の中で対話を通して共通解を模索し、合意形成を図るプロセスに主体的に関わることができる。 ・デジタル環境や対面以外の状況において、対象の非言語情報を的確に読み取って状況を把握し、優先順位を整理した「誤解のない論理的な日本語」で構造化して伝えることができる。					
授業計画	回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
	1	オリエンテーション 「つながる」ための「言葉」	講義・演習	「対話」の意義について考えてまとめる		土居
	2	つながる基礎（1） 文脈の理解と表現	講義・演習	【予習・復習】日本語力小テストライティング・シートの作成		土居
	3	つながる基礎（2） あいサポート研修	講義・演習	【予習・復習】日本語力小テスト「あいサポート」について調べてまとめる		土居
	4	つながる基礎（3） あいサポート研修振り返り	講義・演習	【予習・復習】日本語力小テスト研修の振り返りをまとめる		土居
	5	情報の構造化（1） 論理的に状況を記述・報告する技術	講義・演習	【予習・復習】日本語力小テストライティング・シートの作成		土居
	6	情報の構造化（2） 優先順位の伝達技術（SBARなど）	講義・演習	【予習・復習】日本語力小テストライティング・シートの作成		土居

	7	遠隔の対話（１） デジタル・リーディング	講義・演習	【予習・復習】日本語力小テスト 遠隔での対話を複数体験し、課題をまとめる		土居
	8	遠隔の対話（２） デジタル・ライティング	講義・演習	【予習・復習】日本語力小テスト 文字で信頼を構築することについて考えてまとめる		土居
	9	遠隔の対話（３） 様々な媒体での対話経験の整理	講義・演習	【予習・復習】日本語力小テスト 対面・遠隔それぞれの利点と限界を統合的に理解する		土居
	10	対話による思考の深化（１）建設的な対話技術	講義・演習	【予習・復習】日本語力小テスト アサーションについてまとめる		土居
	11	対話による思考の深化（２）チームでの意思	講義・演習	【予習・復習】日本語力小テスト 多様な意見を可視化し、合意形成を図るプロセスをまとめる		土居
	12	対話的による思考の深化（３）新たな「解」の創造	講義・演習	【予習・復習】日本語力小テスト 対話による新しいアイディアを創出する		土居
	13	哲学対話（１） 問いを立てる	講義・演習	【予習・復習】日本語力小テスト 哲学対話を振り返りまとめる		土居
	14	哲学対話（２） 思考を広げる	講義・演習	【予習・復習】日本語力小テスト 哲学対話を振り返りまとめる		土居
	15	まとめ 自身の「つながる力」	講義・演習	【予習・復習】日本語力小テスト 振り返りレポートを作成する		
先行履修科目	スタディスキル、アカデミック・ライティングを履修し、単位を取得していることが望ましい。					
テキスト	テキストは特に指定せず、ハンドアウトを配付する。					
参考文献	山本真吾編『敬語を上手に使いこなすための 10章』（朝倉書店）					
評価方法	小テスト30%、提出物70%					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	提出物に関しては、クラス全体でシェアし、コメントをしたうえでフィードバックする。					
備考	「つながる力」を意識し、対話を重視した演習を展開します。クラス全体で論理的思考力を高め、互いに良い点を発見しながら、それぞれの表現スタイルを身につけていきましょう。 あいサポート研修を予定しています。					

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1単位	選択
担当教員			
田中響 (t_hibiki@@tcn.ac.jp)、土居裕美子 (ydoi@@tcn.ac.jp)			
授業形態	授業時間数	授業時間外学習時間数	科目区分
講義	15時間	30時間	基礎分野【人文科学】
添付ファイル			

特記事項	資格選択区分 ☐看護師資格必修 ☐保健師資格必修 ☐養護教諭二種免許必修 ☐看護師資格選択必修 ☐保健師資格選択必修 ☐養護教諭二種免許選択必修
	ディプロマポリシーとの関連性 ☐広い視野と人を思いやる豊かな人間性をはぐくみ、人生の問題や課題に誠実に向き合う力 ☒高い倫理性と堅固な使命感をもって生き抜き、人に寄り添う力 ☐専門的な基礎知識と論理的思考にもとづいて看護実践する力 ☐チームワークを重んじ、創造的に多職種と連携・協働する力 ☐病院から地域・在宅へと療養の場が移るなかで、地域で暮らす人びとの健康と生活を支え、地域とともに歩む力
	アクティブ・ラーニング ☒あり ☐なし
	実務経験のある教員による授業科目の配置 ☒担当している ☐担当していない
	実務経験を授業科目にどのように活かしているか 本授業は、看護職の実務家としての豊富な経験を有する教員が担当し、実践的な知識とスキルを習得できる内容となっています。事例を交えた指導で、現場での応用力を養います。 科目等履修生ほか受入（受入可能人数） ☒受入可 ☐受入否 受入可能人数 若干名

授業の概要	人が人を思いやり、寄り添う人間関係が基本にあることによって、看護はその力を発揮する。つまり、患者の思いを大切に受け止めて理解し、その心に寄り添い、患者にどう向き合うか、そこに看護の出発点がある。この基本を踏まえて、本授業では看護におけるホスピタリティとは何か、ホスピタリティはなぜ必要なのかを考察する。看護や介護、病院といった狭い人間関係に限定せず、日常生活の様々な場面を想定して、社会人としてのマナーやホスピタリティ・マインドのポイントとその技法を学ぶ。					
到達目標	・看護におけるホスピタリティの必要性を理解出来る。 ・相手の気持ちを知り、向き合って関わるために、自分自身を知る。 ・相手の気持ちに寄り添うということが自分にとってどういう事であるか、言語化できる。					
授業計画	回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
	1	・オリエンテーション ・ホスピタリティとは	講義	【予習】 ①自己紹介 自身がなぜ看護職に就きたいと思ったかを相手に伝える内容を考えてくる ②ホスピタリティについて調べてくる		田中
	2	ポジティブコミュニケーション	講義	【予習】 ・配布された資料をもとに、自分の意見を考えておく		土居
	3	自分を知る 表現する アサーション①	講義	【予習】 ・配布された資料をもとに、自分の意見を考えておく		土居

	4	私の表現の仕方について知る アサーション②	講義	【予習】 ・配布された資料をもとに、自分の意見を考えておく		土居 田中
	5	他者と自分の違いを知る アサーション③	講義	【予習】 ・配布された資料をもとに、自分の意見を考えておく		土居
	6	医療におけるホスピタリティを考える ・日常の場面で受けたおもてなし事例、実践したおもてなし事例を紹介しあう	講義	【予習】 ・患者・家族は医療に何を求めるか ・病がもたらすもの 日常との相違 (事前にこれらを考えておく)		田中
	7	医療者、看護師になるということ (大切にしたいこと)	講義	看護者の倫理綱領を理解する		田中
	8	ホスピタリティを実践する	講義 グループワーク	予習：指定する地域での活動参加体験を通して、ホスピタリティの実践を行う 復習：配布資料を読んで学びを振り返り、私を表現する。看護を学び、生きることを楽しむ		田中 土居
先行履修科目	なし					
テキスト	授業で資料を配布する。					
参考文献	平木典子：相手の気持ちをきちんと〈聞く〉技術 会話が続く、上手なコミュニケーションができる！，PHP，2013					
評価方法	レポート100% (課題レポート30% 最終レポート70%)					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	毎回の授業の中で、フィードバックします。					
備考	授業（自己学習課題）の一環として、指定する地域での活動への参加をアクティブラーニングとして位置づけ、体験を通してホスピタリティの実践を行います。活動に関する詳細はオリエンテーション等で説明します。授業の中でグループワークを行います。積極的に参加しましょう。					

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	2単位	選択
担当教員			
土居裕美子(ydoi@@tcn.ac.jp)			
授業形態	授業時間数	授業時間外学習時間数	科目区分
講義	30時間	60時間	基礎分野【人文科学】
添付ファイル			

特記事項	資格選択区分 ☐看護師資格必修 ☐保健師資格必修 ☐養護教諭二種免許必修 ☐看護師資格選択必修 ☐保健師資格選択必修 ☐養護教諭二種免許選択必修 ディプロマポリシーとの関連性 ■広い視野と人を思いやる豊かな人間性をはぐくみ、人生の問題や課題に誠実に向き合う力 ☐高い倫理性と堅固な使命感をもって生き抜き、人に寄り添う力 ☐専門的な基礎知識と論理的思考にもとづいて看護実践する力 ☐チームワークを重んじ、創造的に多職種と連携・協働する力 ☐病院から地域・在宅へと療養の場が移るなかで、地域で暮らす人びとの健康と生活を支え、地域とともに歩む力 アクティブ・ラーニング ●あり ○なし 実務経験のある教員による授業科目の配置 ○担当している ●担当していない 実務経験を授業科目にどのように活かしているか 科目等履修生ほか受入（受入可能人数） ●受入可 ○受入否 受入可能人数 5名

授業の概要	日本文学に描かれた人間についての表現の多様性と豊かさに触れ、人間の生命、死生観、人間関係についての理解を深めることを通して、自らの感性を磨き、多様な価値観に対する想像力と理解力、受容性を高め、より豊かに人生を生きるための素地を養う。 毎回受講者全員の「作品論」についてディスカッションを行い、他者との対話を通して自身の読みを深めていく。					
到達目標	・ 作品分析の基礎的知識と技能を身に付け、作品に描かれた内容を正確に読み取り、自身の力で作品分析を実践することができる。 ・ 他者の読解を肯定的に受容し、自身の考えを主体的・対話的に深めることができる。 ・ 作品の読解を通して広い視野、豊かな想像力を獲得し、人生の問題や課題に向き合う姿勢を持つ。					
授業計画	回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
	1	オリエンテーション フランク・カフカ「橋」論 授業概要・到達目標・評価基準 授業の進め方についての説明	講義	【予習】自身のこれまでの「文学」との関わりを振り返る 【復習】本講義の概要と到達目標を自身に関連付けて理解する／作品論を800字程度にまとめる		土居
	2	村上春樹「かえるくん、東京を救う」論(1) －「かえるくん」とは	講義 演習	【復習】あらすじをまとめ、自身の「読みのポイント」を設定する		土居
	3	村上春樹「かえるくん、東京を救う」論(2) －「読みのポイント」による読解	講義 演習	【復習】各自の作品論を800字程度にまとめる		土居

	4	村上春樹「緑色の獣」論	講義 演習	【復習】各自の作品論を800字程度にまとめる		土居
	5	村上春樹「踊る小人」論	講義 演習	【復習】各自の作品論を800字程度にまとめる		土居
	6	志賀直哉「范の犯罪」論	講義 演習	【復習】各自の作品論を800字程度にまとめる		土居
	7	菊池寛「入れ札」論	講義 演習	【復習】各自の作品論を800字程度にまとめる		土居
	8	夏目漱石「夢十夜」論（１） ー第一夜・第二夜	講義 演習	【復習】各自の作品論を800字程度にまとめる		土居
	9	夏目漱石「夢十夜」論（２） ー第三夜	講義 演習	【復習】各自の作品論を800字程度にまとめる		土居
	10	村田紗耶香「信仰」論	講義 演習	【復習】各自の作品論を800字程度にまとめる		土居
	11	中島京子「妻が椎茸だったころ」論	講義 演習	【復習】各自の作品論を800字程度にまとめる		土居
	12	吉本ばなな「パプーシュカ」論	講義 演習	【復習】各自の作品論を800字程度にまとめる		土居
	13	吉本ばなな「ひとかげ」論	講義 演習	【復習】各自の作品論を800字程度にまとめる		土居
	14	吉本ばなな「ムーンライト・シャドウ」論	講義 演習	【復習】各自の作品論を800字程度にまとめる		土居
	15	まとめと振り返り	講義 演習	【復習】紹介された関連図書や映像化された作品に触れる		土居
先行履修科目						
テキスト		テキストは特に指定せず、取り上げる作品（部分）のプリントを配付する。必要に応じて文庫本等を指定する場合がある。				
参考文献		必要に応じて授業中に紹介する。				
評価方法		提出物（作品論コメントシート等）70％・最終レポート30％				
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法		毎回の作品論はクラス全体で共有し、さらに作品の読みを深める形でコメント・フィードバックする。				
備考		上記「授業計画」に記載した作品以外でも、受講生の希望に応じて随時取り上げる予定です。受講者全員で作品を深く理解し、それぞれの作品の多様な魅力を引き出していける空間を作っていきましょう。自身の「文学ノート」を作成し、復習には、配付する補助資料を活用してください。				

講義科目名称： 山陰論

ナンバリング： N-14-01-D

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1単位	必修
担当教員			
土居裕美子(ydoi@tcn.ac.jp)、村田周祐、國本真吾、菅田理一、加藤紗也香			
授業形態	授業時間数	授業時間外学習時間数	科目区分
講義	15時間	30時間	基礎分野【社会科学】
添付ファイル			

特記事項	資格選択区分 ■看護師資格必修 ■保健師資格必修 ■養護教諭二種免許必修 □看護師資格選択必修 □保健師資格選択必修 □養護教諭二種免許選択必修 ディプロマポリシーとの関連性 □広い視野と人を思いやる豊かな人間性をはぐくみ、人生の問題や課題に誠実に向き合う力 □高い倫理性と堅固な使命感をもって生き抜き、人に寄り添う力 □専門的な基礎知識と論理的思考にもとづいて看護実践する力 □チームワークを重んじ、創造的に多職種と連携・協働する力 ■病院から地域・在宅へと療養の場が移るなかで、地域で暮らす人びとの健康と生活を支え、地域とともに歩む力 アクティブ・ラーニング ●あり ○なし 実務経験のある教員による授業科目の配置 ●担当している ○担当していない 実務経験を授業科目にどのように活かしているか 看護職としての実務経験のある教員が、山陰の医療・看護・保健について教授する。 科目等履修生ほか受入（受入可能人数） ●受入可 ○受入否 受入可能人数 5名
------	--

授業の概要	世界中に情報が行きわたり、地球上の経済・社会のグローバル化が進行している。その反面、それぞれの地域の固有な文化が見直されている。この授業は、本学における「地域志向科目」として地域を知るスタートの学びとして位置づけ、文化、社会、医療・福祉の分野における「山陰」という地域の現状と課題、特色や意義についての理解を深める。そうした理解を踏まえたうえで、今後どのような地域貢献ができるのか、ディスカッション・グループワークを通して考えを深めていく。					
到達目標	・山陰地方の歴史と文化、社会と人々の生活などについて基本的理解をもつ。 ・地域社会の一員として、地域のあり方や発展について自分の考えを表明できる。 ・講義の内容を踏まえ、地域で暮らす人々の健康と生活を支えるために自身にできること・したいことを明確に表現することができる。					
授業計画	回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
	1	オリエンテーション「山陰」とは・山陰の歴史と文化	講義	山陰地方の概要を確認したうえで、歴史的文化的意義について考える		土居
	2	山陰の暮らし（１）暮らしと住民組織	講義	「私たち普通の人々」がどのように日常を創造しているのか？思いをはせてください		村田
	3	山陰の暮らし（２）暮らしのなかの生活保障	講義	授業で理解した内容を踏まえ、レポートを作成する		村田
	4	山陰の福祉（１）山陰ゆかりの福祉関係者とその思想	講義	山陰ゆかりの福祉関係者について自身で調べる		國本
	5	山陰の福祉（２）障害福祉の父の思想から考える実践	講義	授業で理解した内容を踏まえ、レポートを作成する		國本

	6	山陰の福祉（3）育児事業史を手がかりとして	講義	授業で理解した内容を踏まえ、レポートを作成する		菅田
	7	山陰の地域看護―地域医療・看護の現状と課題	講義・演習	授業で理解した内容を踏まえ、レポートを作成する		加藤
	8	山陰のことばと文化―「看護」と方言	講義・演習	授業で理解した内容を踏まえ、レポートを作成する		土居
先行履修科目						
テキスト		授業で使用する文献については、テキストとしてハンドアウトを配付する。				
参考文献		参考文献は授業中に適宜紹介する。				
評価方法		各単元の小レポート75%、学びの振り返りレポート25%を総合的に評価する。				
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法		提出されたレポートは、学びの振り返りに活用できるよう、コメントを付してフィードバックを行う。				
備考		この科目は地域志向科目であり、地域とともに歩むために1年次前期「地域志向基礎論」「地域志向基礎実習」を踏まえ、「まちの創生論」につながる科目として展開します。私たちが生活している山陰、郷土のさまざまなことがらに目を向け、関心を持ち、理解し、自分の立場から地域にどのように貢献できるか、授業を通して考えていきましょう。				

講義科目名称： まちの創生論

ナンバリング： N-14-02-D

英文科目名称： Introduction to regional vitalization

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1単位	必修
担当教員			
土居裕美子 (ydoi@tcn.ac.jp)、竹内潔、石田陽介、渡邊太			
授業形態	授業時間数	授業時間外学習時間数	科目区分
講義	15時間	30時間	基礎分野【社会科学】
添付ファイル			

特記事項	資格選択区分 ■看護師資格必修 ■保健師資格必修 ■養護教諭二種免許必修 □看護師資格選択必修 □保健師資格選択必修 □養護教諭二種免許選択必修 ディプロマポリシーとの関連性 □広い視野と人を思いやる豊かな人間性をはぐくみ、人生の問題や課題に誠実に向き合う力 □高い倫理性と堅固な使命感をもって生き抜き、人に寄り添う力 □専門的な基礎知識と論理的思考にもとづいて看護実践する力 □チームワークを重んじ、創造的に多職種と連携・協働する力 ■病院から地域・在宅へと療養の場が移るなかで、地域で暮らす人びとの健康と生活を支え、地域とともに歩む力 アクティブ・ラーニング ●あり ○なし 実務経験のある教員による授業科目の配置 ●担当している ○担当していない 実務経験を授業科目にどのように活かしているか 地方自治体の職員として地域に関わる実務経験のある教員が指導する。 科目等履修生ほか受入（受入可能人数） ●受入可 ○受入否 受入可能人数 5名

授業の概要	現在、地域を支えるため、自治体・企業・NPO・地域コミュニティ・教育機関や住民など、地域創生に関わる各主体がさまざまな手法で活動している。本科目では、「地域とは何か」「なぜ、地域創生なのか」の理解からはじめ、地域づくりの現状と課題、地域活性化への関心を高めるとともに、ディスカッション・グループワークを通して地域創生についての自身の考えを深めていく。					
到達目標	・地域創生に関する具体的な事例の考え方や手法、現状と課題について理解する。 ・地域創生の可能性について自身の考えを表現（提案）することができる。 ・地域で暮らす人々の健康と生活を支えるために自身にできること・したいことを表現することができる。					
授業計画	回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
	1	オリエンテーション：講義概要・評価方法等 「文化・芸術を通したまちの創生」とは	講義 演習	事後：授業で提示された事柄について調べる		竹内
	2	文化・芸術を通したまちの創生	講義 演習	事後：「文化・芸術を通したまちの創生」について、授業で提示された事柄に基づいて調べ、考える		竹内
	3	「民藝」を通したまちの創生 地域文化における「民藝」の現代的意義	講義	事後：「民藝」に関して授業で提示された事柄について調べる		渡邊
	4	鳥取における「まちの創生」活動① 活動の実態を知る	講義 演習	事後：自身が暮らす地域の「まちの創生」活動について調べたことをまとめる		土居

	5	地域創造活動としての「ソーシャル・アート・セラピー」 ① ソーシャル・アート・セラピーの取り組み	講義 演習	事後：「ソーシャル・アート・セラピー」に関して授業で提示された事柄について調べる		石田
	6	地域創造活動としての「ソーシャル・アート・セラピー」 ② 芸術とウェル・ビーイング	講義	事後：「ソーシャル・アート・セラピー」に関して授業で提示された事柄について調べ、考える		石田
	7	鳥取における「まちの創生」活動(2) 「演劇」を通したまちの創生	講義 演習	事後：学んだことを小レポートにまとめる		土居 他
	8	自治体の地域創生施策 倉吉市の取組から学ぶ	講義 演習	事後：「地域創生」について改めて学んだことをふり返り、まとめる		土居
先行履修科目	「山陰論」を履修していることが望ましい					
テキスト	特に指定せず、必要に応じてハンドアウトを配付する					
参考文献	適宜紹介する					
評価方法	最終レポート60%・小課題40%を総合的に評価する					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	提出物については適宜クラス全体にシェアして学びを共有する					
備考	本科目は地域志向科目です。地域に暮らす人の生活と健康を知り、2年次科目「地域志向実践論」「地域志向実践実習」につなげる内容としています。					

講義科目名称： 多文化共生論

ナンバリング： N-14-03-D

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1単位	選択
担当教員			
渡邊太 (watanabe@cygnus.ac.jp)			
授業形態	授業時間数	授業時間外学習時間数	科目区分
講義	15時間	30時間	基礎分野【社会科学】
添付ファイル			

特記事項	資格選択区分 ☐看護師資格必修 ☐保健師資格必修 ☐養護教諭二種免許必修 ☐看護師資格選択必修 ☐保健師資格選択必修 ☐養護教諭二種免許選択必修 ディプロマポリシーとの関連性 ■広い視野と人を思いやる豊かな人間性をはぐくみ、人生の問題や課題に誠実に向き合う力 ☐高い倫理性と堅固な使命感をもって生き抜き、人に寄り添う力 ☐専門的な基礎知識と論理的思考にもとづいて看護実践する力 ☐チームワークを重んじ、創造的に多職種と連携・協働する力 ☐病院から地域・在宅へと療養の場が移るなかで、地域で暮らす人びとの健康と生活を支え、地域とともに歩む力 アクティブ・ラーニング ☐あり ☒なし 実務経験のある教員による授業科目の配置 ☐担当している ☒担当していない 実務経験を授業科目にどのように活かしているか 科目等履修生ほか受入（受入可能人数） ☒受入可 ☐受入否 受入可能人数 若干名
------	--

授業の概要	この授業の主題は、異なる文化的背景をもつひとたちが「共に生きる」ことである。人類が築いてきた文化はきわめて多様である。異文化を理解する方法を身につけ、差別や排除ではなく、「共に生きる」ために必要な社会的条件について考える。					
到達目標	・多文化共生の課題について自分なりに考え、主体的に取り組むことができる。 ・文化の多様性を理解し、他者の文化を尊重できる。					
授業計画	回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
	1	グローバル化とナショナリズム	講義	【事前】 シラバスを読む。 【事後】 授業内容を復習する。	2 時間	渡邊
	2	文化としての食事	講義	【事前】 配布資料を読む。 【事後】 授業内容を復習する。	4時間	渡邊
	3	難民と移民の権利	講義	【事前】 配布資料を読む。 【事後】 授業内容を復習する。	4時間	渡邊
	4	障害とバリアフリー	講義	【事前】 配布資料を読む。 【事後】 授業内容を復習する。	4時間	渡邊
	5	ヘイトスピーチとヘイトクライム	講義	【事前】 配布資料を読む。 【事後】 授業内容を復習する。	4時間	渡邊
	6	朝鮮半島と日本	講義	【事前】 配布資料を読む。 【事後】 授業内容を復習する。	4時間	渡邊
	7	ジェンダーとセクシュアリティ	講義	【事前】 配布資料を読む。 【事後】 授業内容を復習する。	4時間	渡邊
	8	まとめ 差別と偏見を越えて	講義	【事前】 配布資料を読む。 【事後】 課題に取り組む。	4時間	渡邊

先行履修科目	
テキスト	資料を配付する。
参考文献	西江雅之『食べる〔増補新板〕』青土社 宮島喬『「移民国家」としての日本』（岩波新書）岩波書店 望月優大『ふたつの日本―「移民国家」の建前と現実』（講談社現代新書）講談社 横塚晃一『母よ！ 殺すな』生活書院 安田浩一『ネットと愛国』講談社 風間孝・河口和也『同性愛と異性愛』（岩波新書）岩波書店 その他、適宜、指示する。
評価方法	レポート70%、コメント提出等30%
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	コメントに対して授業時に応答する。 課題の評価が「不可」の場合は個別に説明する。
備考	多文化共生に関連する時事問題への関心を持って授業に取り組むことを期待します。

講義科目名称： 社会福祉・社会保障論

ナンバリング： N-23-02-C

英文科目名称： Social Welfare and Policy

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	1単位	必修
担当教員			
青木淳英 (a-aoki@cygnus.ac.jp)			
授業形態	授業時間数	授業時間外学習時間数	科目区分
講義	15時間	30時間	専門支持分野【地域社会と健康支援】
添付ファイル			

特記事項	資格選択区分 ☒ 看護師資格必修 ☒ 保健師資格必修 ☒ 養護教諭二種免許必修 ☐ 看護師資格選択必修 ☐ 保健師資格選択必修 ☐ 養護教諭二種免許選択必修
	ディプロマポリシーとの関連性 ☐ 広い視野と人を思いやる豊かな人間性をはぐくみ、人生の問題や課題に誠実に向き合う力 ☐ 高い倫理性と堅固な使命感をもって生き抜き、人に寄り添う力 ☒ 専門的な基礎知識と論理的思考にもとづいて看護実践する力 ☒ チームワークを重んじ、創造的に多職種と連携・協働する力 ☐ 病院から地域・在宅へと療養の場が移るなかで、地域で暮らす人びとの健康と生活を支え、地域とともに歩む力 アクティブ・ラーニング ☒ あり ☐ なし 実務経験のある教員による授業科目の配置 ☐ 担当している ☒ 担当していない 実務経験を授業科目にどのように活かしているか 科目等履修生ほか受入（受入可能人数） ☒ 受入可 ☐ 受入否 受入可能人数 5名

授業の概要	社会福祉は、高齢者、障害者、生活困窮者等の救済を目的としていた時代から、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域とともに創っていく社会を目指す「地域共生社会」の実現へと転換されてきている。本授業では、私たち住民の暮らしや生命を守る社会福祉・社会保障について、看護師・保健師が必要とする基礎知識の習得を目指し、身近な問題として実感しながら、ディスカッションやグループワークを交えて学ぶ。					
到達目標	・社会福祉の目的、時代背景と理念の変遷を知る。 ・社会福祉・社会保障の実態や諸課題を知る。 ・社会保険、公的扶助、社会福祉の分野とサービスについて理解する。 ・福祉従事者の業務と支援方法について理解し、医療と福祉の連携について理解する。					
授業計画	回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
	1	講義ガイダンス	講義	社会福祉・社会保障の考え方について復習する	2時間	青木
	2	社会福祉の歴史と福祉行財政	講義	社会福祉の歴史と行財政の仕組みについて復習する	4時間	青木
	3	公的扶助（生活保護制度）	講義	生活保護制度の仕組みについて復習する。	4時間	青木
	4	社会保険①（年金・労災）	講義	年金と労災保険の仕組みについて復習する。	4時間	青木
	5	社会保険②（医療）	講義	医療保障制度について復習する。	4時間	青木
	6	社会保険③（介護）	講義	介護保障制度について復習する。	4時間	青木
	7	子どもと家庭の福祉	講義	子どもと家庭に対する福祉制度に	4時間	青木

				ついて復習する。		
	8	障害のある人の福祉	講義	障害者福祉制度について復習する	4時間	青木
先行履修科目	看護学概論を履修していることが望ましい。					
テキスト	・「系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[3] 社会保障・社会福祉」医学書院					
参考文献	・「厚生の指標 増刊 国民の福祉と介護の動向」厚生労働統計協会					
評価方法	定期試験40%、授業中課題・課題レポート25%、確認テスト25%、演習（ディスカッション・グループワークなど）への参加状況10%					
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	授業中課題や課題レポートについての講評を次回授業内にて行う。					
備考	適宜、演習（ディスカッションやグループワークなど）を織りまぜて進める予定である。					

講義科目名称： 災害看護論

ナンバリング： N-35-06-B

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	2年	1単位	必修
担当教員			
田中響 (t_hibiki@tcn.ac.jp)、中川康江			
授業形態	授業時間数	授業時間外学習時間数	科目区分
講義	15時間	30時間	専門分野【看護統合分野】
添付ファイル			

特記事項	資格選択区分 ☒ 看護師資格必修 ☒ 保健師資格必修 ☒ 養護教諭二種免許必修 ☐ 看護師資格選択必修 ☐ 保健師資格選択必修 ☐ 養護教諭二種免許選択必修 ディプロマポリシーとの関連性 ☐ 広い視野と人を思いやる豊かな人間性をはぐくみ、人生の問題や課題に誠実に向き合う力 ☐ 高い倫理性と堅固な使命感をもって生き抜き、人に寄り添う力 ☒ 専門的な基礎知識と論理的思考にもとづいて看護実践する力 ☐ チームワークを重んじ、創造的に多職種と連携・協働する力 ☒ 病院から地域・在宅へと療養の場が移るなかで、地域で暮らす人びとの健康と生活を支え、地域とともに歩む力 アクティブ・ラーニング ☒ あり ☐ なし 実務経験のある教員による授業科目の配置 ☒ 担当している ☐ 担当していない 実務経験を授業科目にどのように活かしているか 本授業は、実務家としての豊富な経験を有する教員が担当し、実践的な知識とスキルを習得できる内容となっています。事例を交えた指導で、現場での応用力を養います。 科目等履修生ほか受入（受入可能人数） ☒ 受入可 ☐ 受入否 受入可能人数 3名

授業の概要	被災者の生命、健康、生活を支えるための災害看護の基本的な知識や技術についての理解と、地域や病院等における災害看護のあり方、考え方とその実際を学ぶ。これにより、看護者として、災害看護活動ができる基盤を培うとともに、発災直後のクリティカルな支援からコミュニティ復興までの長期にわたる経時的対応能力と倫理的態度を育成する。加えて、災害に備えた保健医療システムの構築、災害時に様々な専門職種やボランティアとの連携から成り立つサポートシステムおよび国際的な視野をもった支援システムのあり方についても学習する。					
到達目標	・災害看護の基礎となる危機管理、災害の歴史、定義、種類、法律、制度について理解できる。 ・災害サイクル各期における特徴と被災者・支援者双方の健康問題、災害看護の役割と活動を理解することが出来る。 ・災害時に必要な看護技術（トリアージ、救急法、搬送等）を習得する。					
授業計画	回	授業内容	授業方法	自己学修課題(予習・復習)	取組時間	担当者
	1	災害看護の基礎知識	講義	教科書を読んでおく（予習）		田中響
	2	災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護	講義	教科書を読んでおく（予習）		田中響
	3	災害者特性に応じた災害看護の展開	講義	教科書を読んでおく（予習）		田中響
	4	災害時の看護活動の実際①	講義	事前課題を行い授業に参加し、授業の後にレポートを作成する（予習・復習）		田中響
	5	被災者に対する「心のケア」心のトリアージ、被災者の心	講義	教科書を読んでおく（予習）		中川

		理過程				
	6	支援者に対する「心のケア」 惨事ストレスについて、静穏 期における災害看護の取組み	講義	教科書を読んでおく（予習）		中川
	7	災害看護の実践に必要な知 識・技術1 ALSとBLSについ て	講義・演 習	教科書を読んでおく（予習）		中川・田中響
	8	災害看護の実践に必要な知 識・技術2 BLSの実践	演習・GW	教科書を読んでおく（予習）		中川・田中響
先行履修科目	心理学、人権論の単位修得が望ましい					
テキスト	浦田喜久子・小原真理子他：災害看護学・国際看護学 医学書院					
参考文献	「事例を通して学ぶ避難所・仮設住宅の看護ケア」日本看護協会出版会 著：黒田裕子、神崎初美					
評価方法	定期試験80%、レポート20%					
課題（試験やレ ポート等）に対す るフィードバック の方法	提出物に関しては、確認したうえでコメントを付して返却します。					
備考	補講日に2コマの演習を設け、市民救命講習会等の実技を実施する（鳥取短期大学との合同授業）。授業および演習には主体的に参加し、災害時に必要な判断力と行動力の育成を目指します。活動に関する詳細はオリエンテーション等で説明します。 災害に関するニュース、新聞などから災害医療、災害看護、災害ボランティアなどに対し関心を持ち、新聞ノートを作成しましょう。また、自主防災活動について調べ、機会があれば参加してみましょう。また、演習には、積極的に参加されることを希望します。					